

シルバー ふくちやま

No. 66

令和3年9月1日



市庁舎日常清掃業務

市役所庁舎清掃班は、班長以下11名が交代で、市役所庁舎内外の清掃をしています。

会員数 643名

男 419名
女 224名

(令和3年8月1日現在)

令和3年度 第37回 定時総会開催



令和3年5月29日(土)午後1時30分から第37回定時総会を開催しました。

昨年度と同様に当シルバー人材センターワークプラザを会場にして、新型コロナウイルス感染拡大防止のためご来賓の皆様へのご招待を見合わせ、会員表彰等の式典も省略し、出席者も役員等の少人数にして、規模を大幅に縮小した開催となりました。会員の皆様には、事前に議決権行使書の提出により議決の意思表示をいただきました。

開会にあたり中里嘉久理事長は「シルバー人材センターを取り巻く環境・社会情勢が大きく変わる中、会員の高齢化、会員数の減少など大きな課題となっています。一方、生涯現役社会の実現と地域社会における中核的な活動拠点としてシルバー人材センターの役割も求められています。長年培ってきた経験・知識・

能力を生かしそれを結集して、自主・自立、共働・共助の理念のもと会員、役職員一同が力を合わせ、活力ある組織を作り上げていかねばなりません」と挨拶しました。

続いて、センターの発展にご尽力をいただいた会員の皆様をご紹介し、表彰いたしました。皆様には、後日記念品を添え表彰状をおとどけいたしました。

定時総会は、修斉地区の藤田隆雄会員を議長に選出し議案審議が行なわれました。その結果、上程されました議案は全て賛成多数で承認されました。

●当日の出席者数、議決権行使書の状況

当日の会員数	644人
出席者総数	21人
議決権行使書提出者数	452人

● 議案

第1号議案

令和2年度事業報告について

第2号議案

令和2年度収支決算報告について

第3号議案

会費規定の一部改正について

第4号議案

理事長に対する権限委任について

● 報告

報告第1号

令和2年度収支補正予算について

報告第2号

令和3年度事業計画について

報告第3号

令和3年度収支予算について

報告第4号

自立運営活動資金要綱の一部改正

正について

令和3年度

事業計画

- SDGsに呼应した取り組み
- 健全な安定した事業経営と自主財源の確保
- 安全就業と健康管理の徹底
- 適正就業の実施
- 会員の増強
- 就業開拓と受注拡大
- 職群班の育成強化
- 独自事業の推進と自立促進
- 地区班の活動の推進
- ボランティア活動等社会参加活動の推進
- 普及啓発活動の推進
- 情報収集・提供・調査研究
- 個人情報保護
- 組織体制の充実強化
- 事務局機能の充実強化
- 会員の福利厚生推進

会員互助会 第17回定期総会を開催



5月29日（土）定時総会に引き続き、会員互助会定期総会を開催しました。

■ 議事

- 第1号議案 令和2年度事業報告について
- 第2号議案 令和2年度収支決算報告について
- 第3号議案 令和3年度事業計画について
- 第4号議案 令和3年度収支予算について

上程された議案は、すべて原案のとおり承認されました。

会員互助会行事

お知らせ案内板

新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年度の互助会事業の多くが中止となりました。また、令和3年度の事業においても、新型コロナウイルス感染状況により当初の計画を大幅に変更することになりますが、あらかじめご了承願います。

彰

令和3年5月29日(土)第37回定時総会において、当シルバー人材センターの正会員として15年の長きにわたり活躍され、センターの発展に寄与されました14名の会員の皆様の功績を讃え表彰しました。

15年表彰をいただきありがとうございます。いろいろな会員さんと出会えて交流が深められたこと、また、学んだことも多く感謝しています。最近体力の低下を感じますが、健康に注意してもう少し頑張っていきたいと思えます。



今福 庄司様

15年表彰、誠にありがとうございました。現在は、府民だよりを配布しています。これからも、元気で暮らしていきたいです。

福知山市シルバー人材センター検針業務と趣味のゴルフでか月30万歩行で、健康第一で頑張りたいと思っています。これからも、元気で暮らしていきたいです。



山村 隆様

定年退職で生まれ故郷に帰ると、住んでいた同級生からシルバーに誘われました。以来、「生きがい」を求めてシルバー活動をしてきました。今暫く「生きがい」を求める所存です。



中村 敏彦様

この度、15年の表彰を賜りましたことは、身にあまる光栄でございます。今日まで、いろいろな方々に支えられて健康で就業できておりますことに心より感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。



大槻 祥二様

シルバー人材センターにお世話になり15年。自分達の新人の時は先輩の親切な説明についていくのに一生懸命でした。いろんなことに参加させてもらい楽しい日々でした。

15年、いろいろありました。でも、楽しくすごしました。これからも体調に気をつけて頑張ろうと思います。



長田 英毅様



蘆田 剛様



室田 勝子様

表

入会して15年が過ぎました。この間いろいろなことがありましたが、これからも頑張ろうと思っています。



門田 浩様

入会15年、多くの仲間と出会い、多くを身につけることができました。自分にできることで少しでもセンターの発展に貢献できるように努めたいと考えています。



山地 信一様

おかげで気がついたら15年たっていました。これからもできる範囲でやっていきたいとおもいます。



細見 忠道様

この度は、シルバー人材センターより15年余の活動に対するの表彰を賜りありがとうございました。私も高齢となりましたが今後もシルバーの一会員として楽しい交流が続くことを願っております。



吉田久仁夫様

いろいろあった15年間でしたが、よくここまで頑張ったと思います。いつまで続くかわかりませんが、これからもシルバーで仕事をしていきたいです。



池田佐和子様

会員になって早15年の年月が経っていると知らされ、今更ながら健康でここまで働いてこれたことに我ながら驚いています。これからは微力ですが体力の続く限り、今まで受けてきた社会へ万分の一の恩返しをさせていただく所存でございます。



加藤 光明様

15年表彰ありがとうございます。高齢になりますと、月日が過ぎるのが早く感じられます。シルバーの会員になって15年になりました。人に接する機会があり楽しい日々でした。



西村 實好様

安全・適正就業の取り組み

安全就業はシルバー事業の基本であり、発注者、地域社会からの信頼と存在感を得るために大変重要な要素です。「安全はすべてに優先する」「安全なくして就業なし」を合言葉に、会員自身が安全を確認し、「自分の安全は、自分で守る」という意識啓発を行うとともに、役職員・会員がお互い安全・安心の意識向上に努め、会員の安全と健康管理を確保し事業推進を行うことが基本です。

令和2年度の傷害事故は前年度より3件減少の4件でした。一方、物損事故は前年度と同数の18件発生しました。事故の内容は、傷害事故では、転倒による骨折や切り傷が発生しました。物損事故では車両事故、飛び石、切断事故などが発生しました。

令和3年6月16日(水)に開催した安全就業委員会では、一層の安全意識の高揚を図り会員が一丸となって安全就業に努めることが確認されました。

具体的な取り組み

- (1)飛び石防止
 - ・ナイロンカッターの使用禁止
 - ・飛び石防護ネットの使用
- (2)作業時におけるヘルメットの着用
- (3)就業前の安全管理等のミーティングの徹底
- (4)再発防止のため顛末書・理由書の提出
- (5)安全パトロールの実施
- (6)安全講習会の開催
- (7)安全就業ののぼり旗・看板等安全就業啓発資材の掲示



安全パトロール

安全就業委員会では、安全就業意識の徹底と安全対策を徹底して事故を未然に防ぐため、安全パトロールを実施しています。7月の安全パトロールでは、安全就業委員が2班に分かれて、機械除草班、剪定班、道路維持班の6か所の就業現場について点検しました。一部の会員にヘルメットの着用がなかったため現場で注意することがありましたが、全体として安全対策は良好でした。今後も、事故防止のため安全パトロールを継続します。



「安全・適正就業に関する標語」を選考、決定

本年度も会員31名から65点の作品応募があり、審査の結果次の2点を公益社団法人京都府シルバー人材センター連合会への推薦標語としました。たくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。

● 作業中 『急がず』『あわてず』『油断せず』

大谷 世津子 会員(修斉地区班)

● 危険の芽 摘み取る勇気 各自持つ

田中 秀和 会員(夜久野町地区班)

令和3年度 安全・適正就業推進大会

令和3年7月30日(金)午後1時30分から京都市において、公益社団法人京都府シルバー人材センター連合会「安全・適正就業委員会」主催の「令和3年度 安全・適正就業推進大会」が開催され、当センターから3名の安全就業委員が参加しました。

当日は、府内の各センターの会員から募集した「安全・適正就業標語」について、次の皆様が表彰されました。



最優秀賞

慣れた作業 自分に見えない 落とし穴

南丹市福祉SC 浅野武男 様

優秀賞

「大丈夫」 ゆるむ心に 出来るスキ

京都市SC 小寺啓介 様

優秀賞

安全は 過信と油断と 見栄を捨て

京丹後市SC 小國芳直 様



事例発表では、「安全就業優秀賞受賞につながった日常の取組」について、公益社団法人 精華町シルバー人材センターから、安全・適正就業委員会の取り組みとして毎月安全パトロールの実施、最近の事故の傾向としてちょっとした配慮、工夫で事故は防げたこと、防護ネットの適切に使用、会員の意識を変えるため身の周りから整える必要性などの発表がありました。

参加した安全就業委員は、「安全標語や安全就業の取り組みを参考に、改めて日頃の安全に対する一つ一つの取り組みの大切さを再認識した。これからの就業に活かすとともにセンターの安全就業推進に努めていきたい」と感想を述べていました。



庭木の手入れ講習会

“庭木の手入れ講習会” “網戸張替え体験” 開催

公益社団法人京都府シルバー人材センター連合会主催の高齢者活躍人材確保育成事業として、令和3年5月12日(水)・13日(木)に「庭木の手入れ講習会」、令和3年6月29日(火)に「網戸の張替え体験」をいずれも、京都府立中丹勤労者福祉会館を

会場に開催しました。本講習会は、60歳以上の市民を対象としたもので、参加人数は8名で、基本的な技術を習得されました。講習会終了後、「庭木の手入れ講習会」の受講者から福知山市シルバー人材センターへの入会もありました。



網戸張替え体験

大学生食料応援プロジェクト



福知山シルバー人材センターでは、「福知山の大学を支援する会」主催の「大学生食料応援プロジェクト」に賛同し、食料の支援をしました。

このプロジェクトは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、苦しい生活を余儀なくされている大学生の生活に少しでも役立てるために、「福知山の大学を支援する会」が主催し実施されたものです。

会員の皆様から、白米、玄米約100kg、缶詰、インスタント食品、飲料など261点の提供がありました。これらの食料は令和3年5月13日に「福知山の大学を支援する会」へお届けしました。その後、学生には「福知山の大学を支援する会」から配布されました。ご協力ありがとうございました。

ダウンリサイクル事業について

全国シルバー人材センター事業協会(全シ協)では、株式会社ユニクロが推進する地球環境貢献活動の一環であるダウンリサイクル事業について、資源の有効活用による環境貢献は社会的意義が大きいこと、センターの存在感を広くアピー

ル出来ること等から積極的に連携を図ることとなりました。

その結果、全国で1,505着、京都府で50着、当センターでは3着の回収がありました。ご協力ありがとうございました。

シルバー人材センターと人権

シルバー人材センターの就業は、地域の公共事業を始め、民間事業者様からの仕事、さらには個人あるいは家庭のニーズから発生する仕事等非常に多岐にわたっています。そして、会員は就業を通じて、発注者、発注者の顧客、地域住民、会員など、直接又は間接的に多くの人々と関わり合っています。そのため、就業においては人権を尊重するとともに、就業マナーや安全に配慮した行動が、必須となります。とりわけ、人権は私たち一人ひとりが生まれながらに持つ、誰にとっても最も大切なもので、お互いの思いやりの心によって守られなければならないものです。しかしながら、部落差別、女性、高齢者、子ども、障害のある人、女性の人権、外国籍の人などの人権問題の解決が大きな社会的課題となっています。

シルバー人材センターでは、会員及び職員一人ひとりが人権意識を高めることが就業に欠かせないものであると認識し、社会的責任として人権尊重を基本とした事業運営を進めていきます。

の 声

私がシルバーに入ったきっかけから今現在

雲原地区班 尾上好江

私も、はや振り返ってみると入会して7年にもなりました。

65才で定年になり、職業安定所で僅かなお金を頂くために説明を聞いていると、次の仕事のことを言われました。

「仕事につかないとお金は出ません。どんな仕事がいいですか」

65才で次の仕事?・・・と思いました。長い間勤めてきたのにまだ仕事を探すのかと。農業に本腰を入れようと思っていたのに・・・

「で、探されましたか」

「いいえ、有りません」

何かで調べて「〇〇でオムツたたみの仕事があります」

「〇〇までは遠くて、よう行きません」

「そうですね」

「だったらいいです。シルバー人材センターに行きます」

「あっ、そうですか」

ということで、その場をおさめて、そのままシルバー人材センターに駆け込み、手続きをしました。

中学校で給食配膳をされている会員さんとも話をしたこともあり、シルバー人材センターに行くことに抵抗はなかったのですが、まさかのシルバーでした。

さて、仕事は何でもしますと言ったものの、連絡があり事務所に行くと

「手引きをしていただきたい」とのこと。

「手引かって何をやるのですか。手で草を引くのですか?」

「はい、そうです」

簡単に決まりました。1回目、5月でした。個人の家が済みました。2回目、1週間後に採石の敷き詰められた駐車場で、とても暑い日の1日中でした。影がなく、頭ガンガン、足の裏ジリジリ、とても勤まりそうもない。もうこれ無理。明日電話しようと寝ながら考えました。

でも、よく考えると周りの方は少し年の離れた人ばかりで、頑張っている姿が、顔が浮かびます。若い自分が、ひどい無神経のような気がして考えが留まりました。もう少し頑張ってみよう。それから7年に入りました。

今は止めなくて良かったと本当に思います。仕事は大変だけど、大勢の人と出会い、話ができ、畑の話、花の話、時には言い合い、遠い所、近い所色んな所に日替わりで行き、車に気を付け、家族の協力もあり。

とにかく今は、カンシャ、カンシャ!

会員

余暇のすすめ

惇明地区班 安田 信彦

シルバー人材センターの生みの親である大河内一男氏は、昭和49年「余暇のすすめ」の書物を上梓されました。この書物は、シルバー人材センター設立の基礎となる考え方が記載されています。

氏は、余暇を「人間として個性を十分充足させるための自由な時間」と定義し、充実した余暇を過ごすには条件があるといいます。それは、余暇に適した場所と時間を確保する事、そして余暇支出に対する備えがあることです。そこで氏は「働くこと」を提案しています。働くことで収入を得ればより良い余暇を送ることができるといいます。

労働は、人間にとって価値ある行為であり、日本人には勤勉さを美德とする価値観があります。働くことで、対価を得ると同時に、社会の存立に一役買っているという意識が芽生え、労働を通して社会との結びつきを実感することができます。これはシルバー人材センターの言葉で言えば、生きがい就業にあたると言えます。

働くことで老齢期の余暇を充実させる。また、人間的にもさらに成長し、自分は社会の一員であるという当事者意識を持ち続け、やがては社会形成の一翼を担うようになるという構想が、シルバー人材センター設立を主導した氏にはあったのです。

(月刊シルバー人材センターより一部抜粋)

老いても働く姿を〇〇に見せること

これも役割だと思おう (福知山市シルバー人材センター 会員募集キャッチコピーより)

元気の源

庵我地区班 今次 忠雄

私の元気の源と言えば、グランドゴルフでのリハビリである。

今思えば、数年前に指導を受けたのは、時計の振り子のように打つこと。ボールから目を離さずに打つことであった。

ゴルフのルールをしっかりと覚え、エチケットを守り、仲間と一緒に楽しくプレーを行う事が基本のようである。

未熟ながら、各々のゴルフ同好会に入会して思い出深いのは、ゴルフ発祥の地、鳥取県泊村のゴルフ場、浜風と嵐の中での試合だった。

健康なればこそ、舞鶴、宮津、綾部、和田山、篠山、滋賀等のグランドゴルフ場に行き、多くの友達もできたのに、残念ながら顔と名前が出てこない。でも共通の言葉が

「どうでした。入りましたか」

「入ったよ3本も」

「ワアすごい、ダイヤモンドだ。優勝だね」

夫婦の中で同じ話が出る夫婦は、一番幸せだと思います。会員の皆さん。夫婦揃ってゴルフをしましょう。

「今日もリハビリに行こうか。なあ妻よ」

ホールインワン みんな見ている 腕ほめる

傘寿よ 長生きせよと 薬漬け

新規入会キャンペーン

初年度
年会費
無料

{ 入会説明会 }

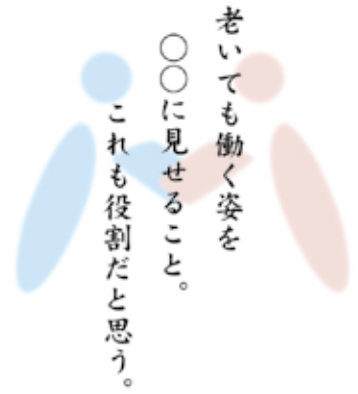
10月1日(金)・10月14日(木)

午後1:30~3:00

公益社団法人 福知山市シルバー人材センター

〒620-0051 福知山市昭和新町 162 番地

電話0773-23-7677



就業相談日

会員からの就業に関する相談を受けます。

就業の問題等どのようなことでも結構です。

相談日 毎月20日 午後2時~
(2日前までに事前申し込み必要)

相談対応者 安全就業委員長及び事務局長

相談窓口開設

会員からの相談を受けます。

事務所開所時間のいつでも相談に応じます。

気軽に相談してください。(予約不要)

哀悼

謹んで哀悼の意を表し
ご冥福をお祈り申し上げます。

藤林 孝司様 (上豊富地区)

令和3年3月 逝去

萩原 静孝様 (惇明地区)

令和3年3月 逝去

植田 公様 (下六人部地区)

令和3年5月 逝去

投稿の募集

投稿していただいた皆様、ありがとうございました。
事務局では、年2回発行の会報誌「シルバーふくちやま」に掲載する写真、原稿を募集しています。題材は自由でどんなことでも結構です。体験談、感想文、随筆、俳句、趣味、雑感などをお気軽に。会員の皆様の投稿をお待ちしています。

編集後記

○コロナ禍で窮屈な生活を強いられているそんな毎日でも、会員の皆様の新たな気付きや原動力を見つけるきっかけになればとの思いで編集にあたりました。

安田 信彦

○何をしてもコロナで窮屈な日々、そんな中オリンピックでは、メダルラッシュで素晴らしい感動をいただいで感謝しています。早くマスクがとれて晴々とした日が来てほしいと願います。

門野 道子

○編集委員2年目です。皆様の興味を引く紙面にたく存じます。

大槻 祥一

○一日も早いコロナ禍の終息をお祈りします。楽しく読んでいただける話題に富んだ会報の発行に努力します。

森 正宣

○編集委員二期目になりました。会員の皆様に楽しんで見ていただけるよう努めてまいります。

谷口 幸美

○残暑お見舞い申し上げます。コロナでシルバーの行事が中止になって広報紙の紙面が埋まりません。

大橋 初男

○新型コロナウイルス感染拡大の中、普段の活動ができない日々が続きますが、会員の皆様の思い、取り組みの様子をお寄せ下さい。

中路 実

○昨年の9月号は「シルバーショップ」の様子、1月号は「シルバー太鼓」。そして今回は「市庁舎日常清掃業務」と会員の就業や活動の様子を表紙で紹介してきました。会員の増加を願って。

加藤 洋行